

○33 番 小野田竜也議員

沼津駅南口にある商店街の今後について質問させていただきます。

高校を卒業し沼津から離れて暮らすようになってから、私は沼津市への愛が一層深くなり沼津市の今後について考えるようになりました。近年、沼津は様々な理由から幅広い範囲で注目されており、観光客数も増加傾向にあります。この傾向をさらに増進するためには、商店街の活用が必要不可欠だ、と私は考えております。沼津の仲見世・アーケードは昔ながらのレトロな景観が残り今でも市民や観光客から愛されています。しかし実際に訪れた時には下りたシャッターが目立ちかつてのような活気は失われてしまっているように感じられます。

この商店街を活用する方法は二通りあると考えています。まず1つ目は現在も残る商店街の良さを最大限に生かし、援助金などを出すことでシャッターの下りにいるテナントに新たな店舗を増やして活気を取り戻させ、観光地として活性化させる方法。2つ目は商店街連盟との合意の上で商店街の土地を再開発し新たな商業施設や行政機関・医療機関を建設し駅を街の中心地とする方法。これはあくまで私の意見なので、高架化の問題や商店街連盟との関係などという事情を加味した市の方針をお聞かせいただきたいです。

○市長（頼重秀一）

小野田議員の沼津市の商店街について、お答えします。

本市の中心市街地は、1日に4万人以上の方々が利用する沼津駅を中心に、県東部地域の顔として、小売・飲食等の多くの商店を始め、会社のオフィス・営業所、公共施設等が数多く存在しております。中心市街地の周辺には、狩野川や香貫山といった自然環境にも恵まれ、交流・にぎわい、憩いの場として、多くの人々が訪れています。

このような中心市街地を活性化するためには、小野田議員ご指摘のとおり、シャッターの閉まった既存店舗の再生と、まちに不足する機能を新たに生み出す都市基盤の整備の両面からの取り組みが必要と考えております。

このため、本市では、空き店舗を活用したリノベーションまちづくりに5年ほど前から取り組んでおり、その結果、東京の三軒茶屋で人気を博したイタリアンレストランや、倉庫物件をそのまま活用したお洒落な生活雑貨店等、魅力ある個店が複数出店を果たし、まちに新たなにぎわいが生まれつつあります。

また、商工会議所、金融機関等と連携し、個店の経営改善や融資、マーケティング等の様々な相談、支援を行い、各個店の経営の安定化に努めるほか、沼津のまちを盛り上げるために、商店街等で繰り広げられる「ぬまづパンまるしえ」や「きつねの嫁入り行列」などの、様々なイベントを支援することで、中心市街地のにぎわい創出を図っております。

一方、都市基盤の整備としましては、鉄道高架事業を始めとする沼津駅周辺総合整

備事業による市街地の南北分断の解消と、鉄道施設の跡地を活用した拠点施設の整備に取り組んでおり、これまでに、駅南口の再開発ビル「イーラ d e」や、駅北口の総合コンベンション施設「プラサヴェルデ」が完成し、新たなにぎわいの拠点として、地域経済の活性化に寄与しているところです。

今後は、事業の進捗に応じて段階的に沼津駅周辺の公共空間を車中心からヒト中心の居心地の良い空間に再編することにより、ヒトが住まい、集い、憩えるような場所にしていきたいと考えています。

こうした取り組みを着実にを行うことにより、多くの消費活動が生まれ、ひいては、商店街の活性化にも繋がるものと考えております。

更に、中心市街地の南部には、年間 166 万人が訪れる市内最大の観光スポットである「沼津港」があり、北部には連日多くの人を訪れている「ららぽーと沼津」が昨年 10 月にオープンし、中心市街地を挟み、南北に大きなにぎわい拠点が形成されました。

こうした動きも見据えつつ、本市の中心市街地が持つ高いポテンシャルを最大限に活用するとともに、点在するにぎわい拠点との繋がりを強くすることにより活性化を図っていくことが必要であると考えております。

このようなことから、中心市街地におけるハード、ソフト両面による取り組みと併せて、各拠点のにぎわいを中心市街地に繋げるため、沼津駅を中心とした公共交通網の再編を行うとともに、今年度中に路線バスとして沼津駅と沼津港を結ぶ E V バスの本格運行を支援してまいります。

こうした官民協働によるまちづくりが重要となりますが、特に、これからの沼津を担う、皆様方のような若い世代の声が非常に重要です。

市といたしましても、若者がまちづくりに参画できる仕組みや機会を増やし、広く意見を聴きながら、将来のまちづくりに反映していきたいと考えておりますので、ぜひともよろしく願いいたします。